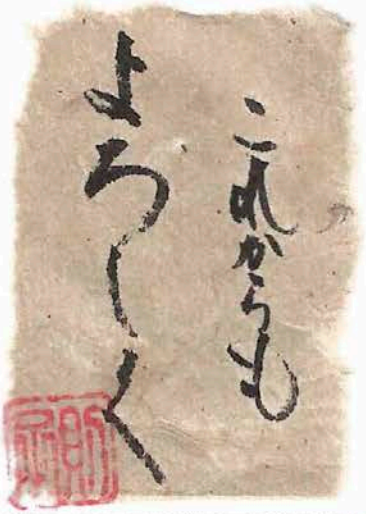
お茶の時間

心に響く言葉



令和7年。元年誕生の子も、小学生だ。息子が開業して早や17年。付き合う私たちもすっかりジジ、ババになり年寄りという言葉に抵抗もせずに仕事をしている。

第120号のこの欄に、徳川家康の人生観「これからだ、これからだ」を掲載した折に嶋悟司さん（元県議造誠館長、92歳）が「もうこれまで、と思っていたけれど、これからだ、これからだ、なのですね」とお便りを下さった。小さなコーナーながら、選んだ言葉が役立っている、と励ましをいただいた。

今年、28年目。読者の皆様、どうぞこれからもよろしく。

小さな庭をよく耕して、小さな種を蒔きました。
ぐんぐん伸びて春になって小さな花が咲きました。ポッ

中位の庭をよく耕して中位の種を蒔きました。
ぐんぐん伸びて春になって中位の花が咲きました。パッ

大きな庭をよく耕して大きな種を蒔きました。
ぐんぐん伸びて春になって大きな花が咲きました
パ～～ッ!!

春になるとお絵の会で小さな子等を相手に歌った。子どもも手をいっぱい広げ、踊りながら。楽しかった。

宝クジの謎

年末、宝クジ今年こそ買うぞ～！と勢いこんで売場へ。「ジャンボ宝クジは昨日で終了しました」

「エ?! あらあら……」

誰も並んでいなかったことも気付かなかった。

当選発表の日、TVでその雄子を見る。

矢が刺さった場所を係が確認し、数字を読みあげていく。会場はザワザワ

帰省中の息子が「我家でも家族分千枚買ったこと忘れて」た。帰ったら確認してみる」

数日後「かすりもしませんでした」とメール受信。

ところで、相当数販売しているのだろうが、締め切り後に余ったクジはどうしているのだろう？

だって、完売で締め切っている訳ではなく、販売日を終了させているだけなのだから。

世のため、人のため、かすかな夢を持たせてくれる宝クジ。

以前は宝クジ売り場と書かれた車や車イスをみかけたが、今、周辺で全くみかけない。

相当の収益があるはず。せめてその年、どんな場に、どれ位還元したか知らせてくれてもいいんじゃない。

ネ、ひょっとして余ったクジの中に当選番号があるのではネ～ネ～、誰か教えて～!!!

時が過ぎても

（2001年 NHKラジオ 朝の随想 第17話）

「お茶の時間」が生まれかわった1997年1月の終り「復活の1号読みて我もまた残せし者をさぐる昨今」「炭塗りの額にあふるる幸せを皆に配りてお茶の時間」と、さらりとハガキにしたためて送ってくれた友人から、『「風邪引きの母に届ける妙薬は、元気湧く湧くお茶の時間」と書き添えてあなたの新聞を母に送ったら、私の歌のことなんかな～んも言わんで新聞のことばかり褒めてんのよ～』と、病弱なお母様に送った時の様子を電話でにぎやかに知らせてきた日の翌、早朝、突然そのお母様が亡くなられてしまいました。ファンが増えた、と喜んだのもつかの間の出来事に、一瞬私は言葉を失いました。

刈羽郡に住んでいらしたその方は、治療と療養を兼ねて新潟市に住む娘の家で時折過ごされていたのですが、お目のかかるとホッとするほど優しくて私たち二人のコントのようなやりとりを聞いては、可笑しい、と弾むように笑う、お嬢さまっ気の抜けていない知的でそれは美しい女性でした。私の手元にはお母様が作られた押し花の飾りがついた箋入れが残っています。友人が、気持ちの張りにと道具を揃えお母様に押し花を習わせた時の作品のひとつです。

危篤の連絡を受けて、雪の降る中を車を走らせる友人の気持ちはどんなだったのでしょうか。悲しい知らせが入ってからしばらくの間は友人の顔とお母様の顔がダブって、思い出しては涙ぐんでばかりいました。

あんなに娘のことをこころに掛けていたのに、可愛い一人娘の到着を待たずになぜ慌ただしく天国に旅立たれてしまったのでしょう。もしかしたらお母様は、娘の泣き声よりも笑った顔や声をみやげに旅立ちたくて雪の降る早朝を選んだのかもしれないのだと友人にそんな言葉しか届けることが出来ませんでした。

「雪がどっさり降る日は母の葬儀の日を思い出します」と、久しぶりに30センチ以上の雪に包まれた先月中旬、友人からファックスが入りました。

友人のお母様とはわずかな期間のふれあいでしたが、人との関わりの尺度は年月や会った回数では計れないものだとこの頃また改めて強く感じています。

18年前、1ヶ月近く入院した折りに親身になってお世話してくださった看護婦さんから「ラジオを聴いていたらなつかしい声が流れてきました。嬉しかったです」、と私のほうこそ嬉しくなる内容の電子メールが送られてきました。その看護婦さんとは年賀状だけのやりとりで長い間一度もお会いしていませんでしたが、初めて送信されてきた近況を知らせる長い電子メールを読みながら、機転の利く働きぶりをみせていた白衣姿を思い出しました。

時が過ぎても忘れられない、心に響く人たちの顔が、ひとり、又ひとり、と浮かんできました。

10数年、親しい友人とのおしゃべりもなくなった。たまに買物先の店内で出くわすこともあったが、お茶を飲みながらたわい無い会話でのんびりしたり、笑い転げることもない。

今は、ラインメールでつながっている。読んでいるだけなのに、表情も声も感じられ何やら嬉しい。ちょっぴり淋しい。

発行　のりちゃんち編集室
編集　子田　則子
950-2072　新潟市西区松美台4－66　子田歯科医院

雪 雪 雪 たっぷり

やっぱり 降りましたね〜

ゼロから突然80cmの積雪の世界に変わった。7年前と比べれば、大したことない、と思うものの、昨年暮れから暖かな日ばかりを過ごしていたので、やはり あれよ あれよと言う間に50cmも積もれば あたふたする。

「なんだか積もりそう」と、息子が早目に融雪ホースから井戸水を出したのが功を奏して、診療所駐車場半分ほど確保。あとは除雪車がどかし、置いていった雪でふさがれた出入口と、職員玄関までの道路の除雪を、朝食など後回しで奮闘。出入口は夫と息子に任せ、私は通路除雪だ。職員玄関の施錠を解除しなければ患者さん用玄関が、開けられない仕組。セコムもかかっている。一時間程かけて辿りつき診療室内に。表玄関の鍵を解除。暖房をつけ、ブラインドを上げ ようやく一息ついた。

家の前を通る路線バスは丸一日運休に。それでもスタッフたち全員、通常通り出勤し有難かった。その日はどうなることやら、と心配したが、患者さんのキャンセルは大半が夜の予約だったので早目に診療終了。全員無事帰宅でき何よりだった。車が車庫から出せなくなった患者さんは徒歩で来院されていた。感謝。

広い車道や一部通学路は除雪も速やかに行なわれるが、歩道はそのままで、人が踏んだ跡をたどって歩く為、デコボコだ。だから歩きにくい歩道を避けて、危ないと分かっているが、除雪された車道を歩いてしまう。

歩道とは名ばかり。こんな状態の道なのに、諦らめずに多くの患者さんが来院して下さった。本当に頭が下がるばかりだ。

新潟市内は雪の少ない地域。今冬、久し振りの雪に慌てたが一m以上の積雪など当たり前の、県内の豪雪地の、"難儀なこと" 計り知れない。

スタッフのひとりのご実家では「積雪3mが越えました」と話していたが、本当に大変なこと。雪、雪、雪がいっぱいなのだから。

殊更、春が嬉しいのも、春の輝きを感じるのも、難儀なことを乗り越えるからこそ、かもしれない。春までもう少し。頑張ろう。

車庫から出して 自宅用スロープ横に置いたら、雪、スッポリかぶって。

↑自宅のスロープ横の花だんは雪で埋もって。

みまりの多さに夫と息子しばし佇む。

診療所出入口。
陵長 ファイト!

薪棚も雪におおわれて。当分は、別の場所に置いた薪を使うことに。

←井戸水で溶けて、きれいに路面が出ている駐車場一部。

川のようにみえるのは、融雪ホースから流れ出る水で溶けた部分。

奥にある駐車場はスペース確保しているが出入口の除雪は、やらないとね。

小型除雪機はあるのだが、雪が重くて役立たず。

結局 人力で。頑張っきゃないのだ。

月のつぶやき

レジ袋が有料になり4年半。エコバッグが売れ、男女問わずひとつは持つ時代。素直というか柔順な国民は、あまり反対の声をあげない。物価高で悲鳴をあげても消費税をやめろ！と言うのは、ほんの一握りだ。やめると死に民せない、と官僚や政治家は言うが、せめて、5%、いや3%に引き下げられないものか。

簡単に給料を上げられない中・小・零細企業には公平な方法と思うが、どお？

収入で線引きし配分、などと時々耳にするが、そんな面倒なことなどせず、富裕層からあとからレシカリ税で回収すれば良い。と思う。

りんご一つの税込み価格に驚く私。家を建てた折消費税分でりっぱなシステムキッチンが設置できるのに…と思ったものだ。

子どもが使う小遣いからも消費税を取る。ガソリンも、税をダブル徴収。どうしてこうなるのか。

消費税をやめろ！と言うのは今和新選組だけ。特に推している政党ではないが他の政党が言わない、言えない訳って何？

貧富の差が広がりすぎて、恐い日本になりつつあるような。

発行　のりちゃんち編集室